

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	独自の理念を作り上げている。誰でも目に触れる事のできる様、各階に理念を掲示している。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を無視しているわけではないが、思うようにならない。理想と現実のギャップの中で日々格闘している状態である。	○	理念を各自再認識してもらう様ミーティング、日々の申し送り等の中で説明、より浸透させていく。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族に向けてのアピール、理解を得ているが、地域の方々に対する取り組みは出来ていない。	○	外に向けてのアピール、アプローチを強化するとともに町内会の催事にも積極的に参加、認識を深めて頂く。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣には挨拶程度の関係。ざくばらんな気軽さは出来ていない。近隣に向けたオープンに迎え入れる雰囲気づくり、姿勢は不十分である。	○	近隣のお店に外食に出掛け、入居者さんとの交流を見て、実感して頂きホームのアピール、こちらからのオープンなお付き合いに努める。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	機会があれば参加している。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	積極的な地域貢献は出来ていない。	○	キャラバンメイトの研修を生かして高齢者等の不安や、相談事に役立つような講演会などの催しを開く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全員までは意識の理解を得られていないが、立てられた改善策には全員で取り組んでいる	○	意義についての説明を行い正しく理解、改善策に対してもそれまでの経過を認識してもらう。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域町内会(やよい会)との協力体制が取れてきた為、より近隣の住民に理解頂く会議を推進していく。	○	より町内会と連携し、積極的にホーム運営に理解して頂く。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	グループホーム協議会に加入している。その中でサービスの向上に努めている。	○	知り得た情報について、職員へも必要に応じ情報提供して欲しい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修等で学ぶ機会はあるが、学習不足もあり活用できていない。	○	知識習得に努める。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	全員が虐待防止に努めている		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行うとともに不安時等、都度問い合わせに等に関しては、理解・納得頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日常の中での希望、意見を可能な限りで取り入れて、少しずつだが満足・充実感を味わって頂いている。(外出、外食、レクリエーション備品)</p>	○	<p>一人ひとりの声に耳を傾け、可能なものに関しては答えていける様引き続き努める。</p>
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月1回のお手紙、ホーム便りにて近況をお知らせする他、至急性のものに関してはその都度電話にて対処している。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>1階にご意見箱を設置している他、来訪時には職員より声をかけ、口頭にて口頭にて直接聞き取りを行う事もある。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>フロア会議、責任者会議を各毎月1回開催し、検討している他、直接の訴えにも耳を傾けている。</p>	○	<p>十分に反映できていない部分もあるので、放置しないで時間がかかっても優先順位で何らかの答えを出していくよう努める。</p>
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>十分とは言えないが、可能な限りにおいて調整、努力している。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>各フロアの研修の実施において、利用者へのアプローチに努めている。また、新しい馴染みの関係作りにも役立っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の機会があれば積極的に取り入れ、育成にも力を入れているが、まだ試行錯誤の中でのトレーニング状態である。	○	職員全員に向けての定期的勉強会開催の計画が必要である。(研修参加者からの報告会など)
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム協議会を通しての研修参加により、交流の場を設定しているが、十分とは言えない。(参加希望者も少ないことが多い)	○	同業者間での研修交流ができないか取り組みが必要である。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	具体的な取り組みできていない。スタッフ間での小さな声が複雑な方向になってしまう事もある。	○	事業所、ユニット関係なく交流できる機会(親睦会・研修会)を設けている。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	向上心のある人、現状維持でよとしてしている人様々で、管理者はそれを統括した取り組みが出来ていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	十分とは言えないながらも、可能な限り話をする時間を作って耳を傾け、聴く姿勢に努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	こちらからも話し掛け、聴く姿勢に努めている。時にはアドバイスをしたり、受けたりと色々な面での会話を心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>努めている。不足している情報について調査、折り返しの報告に努めている。</p>		
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>相談、スタッフからも意見で聞き、調整・工夫している。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>共に過ごす中で一緒に色々な事を見て感じて、支え合う関係作りに努めている。</p>		
<p>○本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>一緒に支える関係になれる様、日々努力している。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>支援に努めている。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族に任せている部分が多く、ホーム側での支援はあまり出来ていない。</p>	<p>○</p>	<p>ホーム側でも出来る事をピックアップし、支援に努めていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	努めてはいるが100%ではなく、その都度状況に応じた場面の中での対応をとっている。	○	現状に納得、妥協せず努力していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	心掛けているが間の前のかかわりで精一杯の面あり。余裕がない。	○	気持ちにゆとりを持ち、つながりある関係に努める。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望、意向の把握に努めているものの、本人から日常の中で何気なく本心が出る事あり、反省する場面も少なくない。	○	普段は口に出さない本音を聞き流さず、反映できる様書き留め、サービスの向上につなげる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人より聞き取り難しい時はご家族より伺い、把握に努めている。	○	一度で聞き取り把握はできないので、継続して把握に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	努めている。	○	より一層、深く全員で把握に努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員一人ひとりにもモニタリング、担当者会議等で意見を出してもらい計画に反映している。	○	より積極的に実際に携わっている現場の声をへんえいさせられる様に工夫・リサーチしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p> <p>現状に即した介護計画の見直しをしているが、フロアー日誌により(細かな変化等には)対応していることも多い。</p>	○	見直し以前に対応できない変化が生じた場合の新しい計画を早急に作成していく。
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p> <p>個別日報、フロアー日誌により、色々な情報を共有しながら実践や見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p> <p>家族が受診同行できない場合、職員が同行する。外出の介助をする等の支援は行っている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p> <p>回数は少ないがボランティアの方による催しを開催、利用者にも喜んで頂けている。</p>	○	今後もっと増やしていきたい。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p> <p>現在までには対応していない。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p> <p>現在までには対応していない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>43 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>気軽にとまではいかないものの重要度によって至急性のある件に関しては電話での問い合わせ等も行って支援に努めている。</p>		
<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>44 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症の専門医ではない場合もあるが、相談を随時行い支援に努めている。</p>		
<p>○看護職との協働</p> <p>45 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>かかりつけ病院の看護師に適時相談、支援に努めている。</p>		
<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>46 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院にあたっては主治医に相談、往診の他主治医の指示のもとに入院、その後のリハビリについても相談に乗って頂けている。</p>		
<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>47 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>まだ初期段階ではあるが、積極的に家族、主治医に話し合いまたは相談の場を持つ様 打診、情報の提供・共有をはかる為に試行錯誤している</p>	○	<p>ご家族、主治医との連携体制作り、またその強化に向けて積極的に動き、関わっていく。</p>
<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>48 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>状態に応じた対応について、ご家族・主治医に相談するとともに、意見・指示を伺い少しでもより良く過ごして頂けるように現在検討、準備に努力している。</p>	○	<p>引き続き準備を行い、ホームのすべき事を明確化し、チームケアでの支援に努める。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	まだ住み替えはないが、今後の協働によるダメージの防止に努める。	○	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	日々の言葉掛けや対応の中で配慮不足が見られることがある。	○	常に利用者の尊厳、プライバシーを意識、配慮した行動に努める。スタッフが互いに注意し合えるチームワーク、関係の構築に努める。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	極力自分で決定できる事は本人に意思決定して頂けるように配慮、働きかけの支援に努めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合に左右される事が少なくない。しかし、その中でも希望を伺いそれに沿うような支援も行っている。	○	ご希望に沿うことができるような体制作りを検討、スタッフの意識の見直しも同時に行っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	その人らしさの支援を行っているが、理美容に関しては訪問体制をとっている為、個人の希望に応じた支援は行えていない。	○	一人一人に合わせた支援は行えないので、ご家族へ協力体制の依頼を希望に応じ行ってみる。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	できる事への参加を呼びかけるなど支援に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みのリサーチを行い、日常の中で取り入れ支援しているが十分とは言えない。100%の満足には至っていない。	○	引き続きの支援に努める。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツの使用を必要時のみとし、排泄の失敗時は汚染下着を自尊心を傷つけないよう配慮の中、回収・洗濯を行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	可能な場合は希望を伺ったり、希望に沿って入浴して頂いたりもしているが、それが毎日ではなく、職員の組んだ順番での入浴になってしまっている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	支援に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	将棋や外出などその人に合わせた役割、楽しみ、気晴らしを考え支援しているが時間や人手がかかるものについては十分な満足感を味わって頂けていない部分もある。	○	満足度アップに向けてのスケジュール検討、時間の捻出に努める。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望、力に応じて支援をしている。外出時等には希望によりお財布を持って頂いたりなどの配慮を行っている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人一人の希望よりもスタッフの声掛けによる外出が多い。現在のスタッフの状態の中では日常的に個人の希望に応じた外出は難しい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	近場ではあるが、温泉・花見などの外出の企画を立て外出の支援を行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望に応じ電話など自由にかけられるよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族への声掛け、来訪者には笑顔での挨拶と飲み物の提供等おもてなしに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全員が理解し、取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全員が理解し、取り組んでいる。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	配慮に努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者一人ひとりの状態に応じて居室内物品の配置、設置に配慮し、危険防止に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	ひやりはっとの記入、共有化にて事故防止に努めている。		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	研修は1回だけで、全員への周知徹底には至っていない。	○	定期的な研修会の開催に取り組む。
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	年に1回避難訓練を行っている。		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	家族との話し合いを行い、状況の理解、対応策の説明・理解に努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>73 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	日報、日誌を活用し速やかな情報交換、共有化をはかり、対応している。		
<p>○服薬支援</p> <p>74 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	全員が十分な理解はしているとは言えない。	○	特に注意すべき点を中心に全員に開示、理解させていく。
<p>○便秘の予防と対応</p> <p>75 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	全員が意識して取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) <sup>△</sup>	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後ではないが、朝・夕の口腔ケアについては力に応じた支援を行っている。ポリデント、個人別に口腔洗浄剤の使用を支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分、食事の摂取量を記録し、必要に応じた声掛け、支援を行っている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがい、マスク着用の声掛け、実施。また、必要な箇所には塩素系消毒を毎日行っている		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	週1回の冷蔵庫整理、消費期限の確認の他、台所道具等の栄養管理として毎日の消毒処理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりは殺風景である。	○	玄関周りに緑物を配置し、明るいイメージ作りを工夫していく。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	お花を飾ったり、手作りで季節のDPにて工夫し季節感を演出している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	空間が狭く、共同スペースの他は気の合った少人数での憩いの場所が不足している。	○	利用者同士の居室での語らいの機会を積極的に支援する。 また、居心地の良い居室作りの支援に努める。
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。			
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ポータブルトイレを居室にしている場合は特に換気の声掛け、介助を行っている。 また、居室に全て湿温度計を設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺を随所に設置している。風呂場の手摺にはより見易いように赤テープを貼り目立つように工夫している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの表示、案内版を設置するなどの工夫を行っている。	○	今後とも利用者の状態に応じた工夫を考え、実行していく。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外回りの空間活用はなされていない。	○	花や野菜のプランターの設置し目で見て、実際に触れて楽しんで頂く。 また、整理整頓、清掃にも十分配慮していく。

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ○ ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ○ ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ○ ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ○ ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ○ ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ○ ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ○ ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ○ ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ○ ④ほとんどない
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ○ ③あまり増えていない ④全くいない
98 職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ○ ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ○ ④ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ○ ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)